平成27年度発達障害に関する教員の専門性向上事業

府中町立府中中央小学校の取組

研究テーマ
数学的な思考力・表現力の育成
～　自分の考えを表現させる場と指導法の研究をとおして　～

授業実践①（プラン）

◆第３学年　算数科　単元名「かけ算の筆算（１）」

◆本時の目標

３つの数の乗法が１つの式に表せることを知り，乗法の結合法則について理解する。

◆児童の状況と，それをふまえた指導・支援のポイント

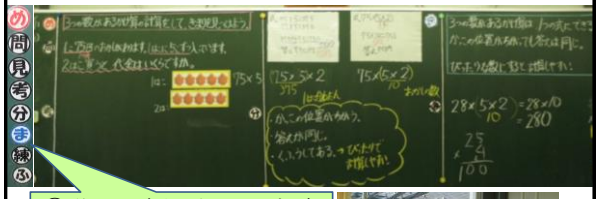
学級全体の状況
・問題場面をイメージすることが難しい。
・自分の考えを分かりやすくノートにまとめたり，説明できる児童が少ない。

特別な支援が必要な児童の状況
A児：算数の学習は意欲的だが低学力。九九の計算に時間がかかる。
B児：落ち着きがなく授業に集中しにくい。

指導・支援のポイント
・キーワード
・視覚的な支援
・ペア学習
・肯定的な言葉かけや評価

授業実践②実践の具体

〔自力解決を充実させるための取組〕



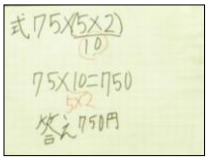
①学習の流れが見える板書

②問題文を区切って提示

③既習事項の掲示

授業実践②実践の具体

〔共同解決の充実のための取組〕



①ホワイトボードの活用

②図と式と言葉の関連づけ

③フラッシュカードの活用

授業実践②実践の具体

〔個に応じた手立ての工夫〕

①九九表の活用

②肯定的な言葉かけ，評価

③ペア学習

授業実践③成果・課題

〔成果〕

・友達の考えを共有することができた。
・ペア学習によって，学習内容の理解が深まった。
・Ａ児，Ｂ児も学習内容を理解することができた。

〔課題〕

・課題把握をさせるために問題文と図を関連づけながら提示したが，図を読み取る力が不十分だったため，問題場面のイメージ化にはつながらなかった。
・Ｂ児に対しては，言葉かけを行ってきたが，注意喚起が主となってしまったため，学習意欲につながりにくかった。

授業実践④今後の改善点

①課題提示の仕方の工夫

②一人一人の「よさ」を認め生かせる授業の展開

普及・啓発①拠点教諭の取組

①特別支援教育の視点に立った授業づくりの提案

〔授業〕

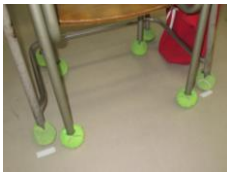
- 指導案に特別支援教育の視点を明記
- 授業の流れが見える構造的な板書
- 既習事項の掲示とブロックや図を使った説明
- ホワイトボードの活用
- 意図的なペア学習

〔教室環境〕

- 黒板周りの整理
- 児童の机の配置

普及・啓発②拠点教諭の取組

②教員のノウハウ（学級づくり，授業）のシェア



普及・啓発③拠点校の取組

①ノート名人の掲示及び表彰

②教育研究会において取組の紹介

今年度の成果・課題

	成　果	課　題
授業実践	○児童の実態に応じた授業づくり ○児童の意欲の向上 ノート　５９%→８０% 説　明　２９%→７９%	●個のつまづきに応じた手立てが十分にできなかったため，学力の定着につながらなかった。 ●授業内容に関わっての視覚的支援が十分でなかったため，課題解決につながりにくかった。
普及・啓発	授業提案 ○「府中町生徒指導推進事業」 第3回生徒指導担当者会 （対象） 府中町内各小・中学校の生徒指導主事 ○公開授業研究会 （対象） 町内各小・中学校教諭	●授業提案を行ったが，算数科における授業づくりの協議が主となりがちだったため、特別支援教育の視点での協議になりにくかった。 ●普及の場を校内研修や公開授業研究会にあわせたため，特別支援教育の視点に立った授業づくりの明確な視点を具体的に伝える場がなかった。

次年度への展望

	取組の重点
授業実践	①個の実態に応じた授業づくりの工夫。 ②電子黒板等の視聴覚機器を活用した授業づくり。
普及・啓発	～町主催研修での授業提案・実践発表など～ ①「府中町主催ＩＣＴを活用した授業推進のための研修会」 ･･･視覚支援のためのＩＣＴの有効活用について提案 ②「府中町主催特別支援教育研修会」 …発達障害など特別な配慮が必要な児童・生徒が在籍する学級の集団作りについて実践発表 ③「第1回府中町初任者研修」 …発達障害のある児童生徒の在籍する学級の集団作りについて指導・助言